

編集後記

平成9年度大学入試センター試験は、新教育課程としての初めての試験であり、また、過去最高の60万人もの志願者を集めて実施されましたが、結果においては様々な問題が生じました。そこで、今回のフォーラムでは、大学入試センターとしてこの結果をどのように受け止め、今後どのように改善していくのか、その方向性などを「新教育課程によるセンター試験―第1回を終えて―」と題して掲載しました。

出題ノートでは、「生物」は舘先生、「英語」は三宅先生にご執筆いただきました。両先生の出題ノートとも、大学入試センター試験の問題作成に対する熱意が伝わってくるものであり、大学入試センターとしては、このような先生たちに支えられていることを改めて実感し、感謝に耐えない次第です。

事例紹介では、入学者選抜の多様化に伴い各大学で実施され、注目されている「総合試験」を、千葉大学、信州大学及び高知医科大学での事例を紹介していただきました。

さらに、「国立大学入学者選抜研究連絡協議会の活動と課題」と題して、協議会会長の市川先生にご執筆いただきました。

その他巻頭言では、廣重所長の「右脳とセンター試験」、柳井研究開発部長の「大学入試センター研究開発部の活動について」、菊地助手の「入れ替わり率の性質について」の研究ノート、平助手の「アメリカ・イリノイ州の教育評価テストについて」の報告などを掲載しています。

統計資料としては、今回は特に昭和54年度共通第1次学力試験から平成9年度大学入試センター試験までの実施結果をまとめました。いろいろな機会に参考にいただければ幸いです。

フォーラム No.20の作成に当たり、お忙しいなか、ご執筆いただきました先生方には改めて心からお礼を申し上げます。